令和３年（2021 年）３月 26 日
豊中市立第十三中学校 学校だより

Team13

－ 19 －

校訓「自主・創造・敬愛」

ホームページ URL　http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/jh13/

１年の締めくくりです。

今年度は新型コロナウイルスの流行により長い休校の期間からスタートしました。学校が始まってからは先生たちやスクールサポートスタッフの方が消毒作業をしたり、授業中も換気をして感染予防をしたりしてきました。何より皆さんのマスク着用や手洗いの協力により校内で感染が広がるようなことはなかったのは幸いな事でした。また、感染した人や医療関係者への差別や中傷は起こらず、十三中生の優しさを感じました。

行事では１年生は校外学習がなくなり、２，３年生は宿泊学習、修学旅行が日帰りになりました。体育大会では懸命に走る皆さんの姿が見られてよかったですが、教科の学習でも器楽や合唱ができなかったり、授業時数が減ってしまったことと感染症予防の観点からも話し合いや教え合いなどの言語活動がしにくかったりもしました。

このような状況の中でも、皆さんの授業を見ているとどの教室も一生懸命に授業に取り組む姿があり感心しました。

なぜ勉強しないといけないのだろう？

「勉強なんて生活に何の役にも立たない。」と感じている人もいるかもしれません。まあ確かに大人になって日常生活に方程式を使ったり化学式が登場する人はあまり多くはないでしょう。しかし、毎日いろいろな教科を学習する中で皆さんの中に知恵がたまってきているのです。それは、覚える力とか、考える力、伝える力、表現する力、コミュニケーションする力などです。あまり実感できないですか？やっぱり役に立たないように思いますか？

では次に、役に立たないものも実は役に立つという話をしましょう。

例えば皆さんが高い山の中にかかる吊り橋を通るとしましょう。その時に吊り橋が歩く場所ギリギリしかないほどの幅ならどうでしょう？とても怖くて渡れませんよね。そう考えると橋の端っこの場所は使わないけれど必要な部分です。こういう事を『無用の用』と言います。

皆さんドーナツの穴は食べますか？食べられませんよね。だってそこは空気です。食う気があっても食えません☺。食べ物として中央に大きな穴が空いているなんて非効率的と言えばその通りです。でもそれならば、なぜ穴のないドーナツばかりにならないのでしょうか？これも無用の用を証明していると思いませんか？

こんな話もあります。古い話です。昔水道がなかった時代、ある人が毎日２つの甕（かめ）をかついで川に水を汲みに行っていました。ところが一つの甕は小さな穴が空いていて家に着く頃には水が半分ほどに減ってしまうのです。その甕は申し訳なく思い主人に言いました。『私に穴が空いているためにいつも水が半分しか運べなくてごめんなさい。』すると主人はにっこり笑ってこう返しました。『あなたは気づいていないかもしれないけど、その穴のお陰であなたが通る側にだけ草が育ち、花が咲いている。私はその花を見て元気をもらい、重い水を家まで何とか運ぶことができるのだ。』

本来の目的にとってマイナスとしか思えない事でも思わぬところで役に立つことだってあるのです。

いま勉強に苦しんでいる人は、そのために子どもの気持ちの分かる優しい教師になれるかもしれません。病気にかかっている人こそ同じ病に悩む患者さんを励ますことができるのです。いましんどい経験をしている人も、その経験は経験値としてあなたの貴重な財産となったり、これから良い経験を重ねることで忘れ去ることができると信じて今を乗り切りましょう。中学生はまだ狭い世界しか知らないかも知れませんが、成長していけば世界が広がり、今は知らない楽しみや喜びに出会うことができるのです。

一人ひとりの人生はとても大切で、意味のない人生なんて絶対にありません。でも人の人生の意味はこれだ！と言うのは簡単ではありません。私（校長）はこの歳になってもその意味を探し続けています。自分の可能性を信じていつまでも成長期でいたいと思っています。それが私にとっての勉強を続ける意味かな、と思います。

今年は 26 日が修了式なので春休みが短く、すぐに４月になります。新しいクラス、新しい出会いがありますね。元気な顔でまた会いましょう。

保護者の方へ

　ひとつ、保護者の方に役に立つ（かもしれない）テレビ番組をご紹介します。
尾木直樹さん（尾木ママ）がやっておられる「ウワサの保護者会」（E テレ）という番組です。思春期の子どもを育てている保護者の方の共通のテーマを毎回取り上げており興味深いです。

例えば、今年度取り上げられたテーマは次のようなものです。
「親が知らない子どものホンネ」
「これって過干渉？」
「反抗期　親はどうする？」
「どうする？子どものSNS」
「子どもに伝わる叱り方」
「父が知らない娘のホンネ」
「気になる姿勢のなおし方」
「将来の夢」
「どう育む？自己肯定感」

↑　番組 Web ページ

　1 年間、このコロナ禍の中での本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきまして有難うございました。早く収束することを願うばかりですが、新年度もまだまだこのしぶとい感染症に対応しながらのスタートになりそうです。引き続きよろしくお願いいたします。